

緒川城主三代の墓所 (緒川城と乾坤院のちょうど中間に位置する高台)

緒川城主初代水野貞守 (中央)、二代賢正 (向かって左)、三代清忠 (向かって右) の墓である。文明7年 (1475) 頃、水野貞守が緒川城を築いた。

貞守は長享元年 (1487) 没、賢正は永正11年 (1514) 没、清忠は父に先立って永正6年に没した。

なお、右の2墓は4代忠政の兄、成政 (1522没) とその子成清 (1533没) の墓である。 (東浦町指定文化財)

善導寺 (於大が自らの菩提所とされた寺)

浄土宗・鎮西派。京都知恩院の末寺。

嘉吉3年 (1443) 音誉聖観上人が創建した。

寺は初め海辺にあり度々潮水の害を受けたので、慶長10年 (1605) 緒川城主水野分長が現在の山上に移し再建した。

家康の生母伝通院於大の方は、度々生まれ故郷のこの寺に参詣し、彼女の寄進した三尊阿弥陀如来像、善導大師木像・同師自画像、同師所持の柄香炉が今も保存されている。

尾張藩の頃、寺領21石9斗6升を給せられ、歴代藩主の黒印状がある。

県指定文化財「異国降伏祈願施行状」の外、後柏原院御宸翰、宮本武蔵筆円光大師像、於大使用の夜着等を所蔵している。

塔頭の乗林院には明治5年学制発布の時、緒川村・石浜村共同の「郷学校」が開設された。



●善導寺

緒川城址 (於大が生まれた緒川城)

初代緒川城主、水野貞守が文明年間 (1469~1486) に築城して以来、約130年間水野氏の居城であった。

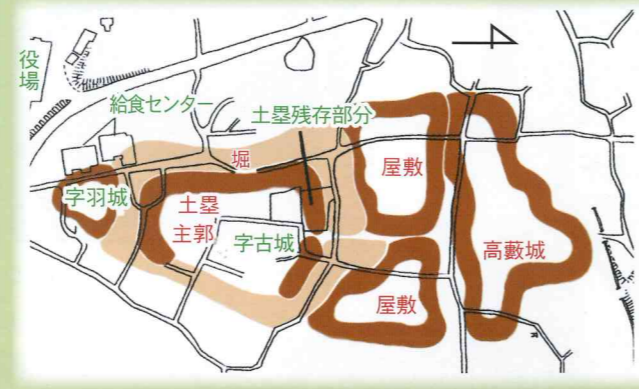
慶長11年 (1606)、最後の緒川城主水野分長が三河国新城1万石に移封となり、緒川城は廃城となった。

緒川城は、海岸沿いの平地を裾野にもつ低い山の中腹に築かれ、城下町と一帯となった平城であった。

城跡の周囲は、三方が山地形で、東側は急な崖になっている。

緒川城に関する史料として、江戸時代初期に描かれた「緒川村古城絵図」(名古屋市蓬左文庫所蔵)がある。絵図には、土塁(土を積み上げて築いた城壁)と堀に囲まれた大小の曲輪(郭)が描かれている。中央から南の一段と大きい曲輪が城の中核をなす主曲輪で、東西83m・南北95mほどの方形である。北の曲輪群は家臣の屋敷地で、その一画は、分長の時代に居城とされ「高敷城」と呼ばれた。今この地域は住宅地になっており、土塁の一部が残るのみとなっている。 (東浦町指定文化財)

緒川城位置推定図



おもだかの伝説

緒川城主水野清忠の奥方は初め子がなかつたので、かき殺地蔵に祈願を続けました。満願の日、清めの水を汲もうとすると、井戸の中に一茎の沢瀉が浮かび、葉の上に永楽銭が乗っていました。間もなく子宝を授かり、産湯にもこの井戸の水を使いました。以来、水野氏はこの地蔵を深く信仰し、沢瀉と永楽銭を家紋にしたと伝えられています。沢瀉の家紋については他にも言い伝えがありますが、沢瀉の葉が矢じりの形に似ていることから、武家の家紋として好まれました。



発行・編集 東浦町教育委員会  
東浦町郷土資料館 (うのはな館)  
〒470-2103 愛知県知多郡東浦町大字石浜字桜見台18-4  
TEL 0562- 82-1188 FAX 0562- 82-1189  
メールアドレス : siry@town.aichi-higashiura.lg.jp

緒川地区 史跡めぐりマップ

徳川家康の母

於大の方と水野氏



徳川家康(左)・於大(中)・水野忠政(右) 木彫 栗山賀行 作 東浦町郷土資料館 所蔵

於大の生きた時代

戦国時代の終りころ、天下統一へと歴史は大きく動き始め、織田信長と豊臣秀吉そして徳川家康らが活躍する。この時代に緒川城主水野氏の娘として生まれたのが、家康の母於大の方であった。戦国の世の女性、とりわけ小国の城主の娘於大の生涯は波瀾に満ちたものであった。

水野氏発祥の地

水野氏の祖である水野貞守が緒川の地に旗揚げしたのは、都でおこった応仁の乱(1467年)をきつかけに戦乱が全国に広まろうとしていたころであった。戦国時代の水野氏は、緒川城を拠点に刈谷・大高・常滑へと次第に勢力を伸ばし、威名をとどろかせた。

宇宙山乾坤院 (総門・山門・堅雄堂・水野家四代の墓所)

緒川城から見て、乾(北西)坤(南西)に当たるといふ易学上からの命名であろう。本尊を大通智勝如来(胎内仏・釈迦牟尼仏)とする曹洞宗の別格寺院である。開基は初代緒川城主水野貞守。文明7年(1475)に創建された。

総門

総門は、一間薬医門、切妻造りで本瓦葺である。寺の門としては、全体に木柄が太く斗拱・虹梁・臺股などの装飾的な意匠を用いず、質実・豪壮な印象をうける。曹洞宗伽藍の総門として格式を備えたものとみられ近世前期の貴重な門である。寺の記録によれば、68世金牛の代(寛永7~8年・1630~31)に建てられたとされる。 (東浦町指定文化財)

山門

山門は、三間一戸の二重門で屋根は入母屋造り銅瓦葺である。二階は四周に回廊が設けられ、高欄が回らされている。正面中央柱間に棧唐戸があり、その両脇に格子付きの窓を設けている。全体に禅宗様式で統一され、小規模ながら県内の数少ない二重門として貴重な建物。寺の記録によれば、100世符肇和尚の代(天和2年・1682)に建てられたとされる。 (東浦町指定文化財)

堅雄堂・四代の墓所

水野忠善は、初め下総山川城3万5千石の領主であったが、後に岡崎城5万石に封ぜられた。その栄進を喜び、曾祖父に当たる忠政の功業を記念して、寛文10年(1670)この堂を建て忠政の法名「大溪堅雄大居士」に因んで堅雄堂と称した。

堂は、三間四方、本尊は千手観音、水野氏歴代の位牌を祀り、壇上向かって右に、忠政の木像、左に忠善の木像を安置してある。堂の西隣りの忠政の墓、その南の忠守-忠元-忠善の大五輪塔も忠善が建てた。 (東浦町指定文化財)